

# 関西広域産業共創プラットフォーム News Letter

2026（令和8）年  
 3月末発行

## ● 令和7年度第4回PF連携会議を開催しました 3月18日開催

関西広域産業共創プラットフォーム（以下、「PF」）では、3か月に1回を目途に、PF連携会議を開催しています。本会議には、関西広域連合域内の公設試の所長・理事長に出席いただき、実施している事業へのご質問やご意見をいただいています。

令和7年度第4回目のPF連携会議は、オンラインで開催し、当PFに寄せられる相談の件数やアンケートでの満足度、域内公設試等のシーズと企業ニーズのマッチングの進捗状況に加え、事業化支援の事例やシーズ・ニーズ一覧の紹介、公設試見学・交流会に関して、事務局よりご報告を行いました。

出席いただいた所長、理事長の皆様から、かんさいラボサーチの運営目標や来年度の組織体制についての質問・意見が寄せられました。また、研究人材の確保が共通課題となる中、公設試が連携して実施する研究職キャリアセミナーの開催について意見交換が行われ、広域連携による認知度向上や人材確保への期待が示されました。

統括ディレクターから、PFは参加機関が一体となって進める事業であるとのメッセージが伝えられ、次年度に向けた継続的な活用と発展への意欲が共有されました。



## ● シンポジウム「関西×九州で考えるこれからの広域連携 ～ 道州制を見据えて～」に伊藤統括ディレクターが登壇しました

関西経済連合会と九州経済連合会が合同で主催する標記シンポジウムが、リーガロイヤルホテル大阪で開催され、関西・九州の企業・自治体・大学を中心に、全国の経済連合会関係者にもオンラインにてご聴講頂き、約200名が参加しました。

本シンポジウムは2部構成でトークセッションを実施。第1部では、「都道府県を越えた広域行政の推進、将来的な道州制導入に向けて」と題し、道州制を見据えた統治機構改革の必要性について、関西・九州での取り組みや海外の事例などを交えて議論が展開されました。第2部では、「各ブロックにおける広域連携の取組、広域連携をさらに発展させるために」と題し、都道府県を越えた新たな連携の枠組みである「広域リージョン連携」をふまえた広域連携の方向性について、観光や産業振興の観点から意見が交わされました。

関西広域産業共創PFからは伊藤統括ディレクターが登壇し、本PFが実現した経緯や意義、現在の取組、めざす方向性についての紹介を行いました。また、公設試連携等の府県を越えた広域連携を全国に拡大していくために必要なこととして、広域連携・官民連携を進める上でのポイントの紹介、広域リージョン連携への期待について意見を述べました。



### ～事務局便り～

暖かい日が続き桜花爛漫の季節となりました。心も体も景色も解放感でいっぱいですね。いわゆる卒業旅行や桜めあてのインバウンド効果などで新幹線を含む各交通機関は混雑しています。春休みを利用した家族旅行も多く、リュックを背負った子どもたちをみるとほのぼのとした気持ちになります。この子どもたちが元気に成長して日本の未来を拓いてくれたらいいな、などと思ったりもします。

さて、当PF事業もこの3月末で3年5ヵ月となります。今年度は、企業からの相談やシーズ・ニーズマッチングなどの件数が合計100件を超え、また顧客満足度指数も80%を超えており、目標値をクリアしました。新製品・新事業開発につながる案件も徐々に増えてきており、一定の経済効果を生み出す状況も見えてきています。PF事業を支えて頂いている公設試やコーディネーターの皆様、また全国のアドバイザーの方々のご尽力、ご支援に深く感謝いたします。春の開放感を活動エネルギーに転換し、「小さな相談、大きなチャンス」という事業開始以来の理念を忘れずに事務局一同、頑張ってます。

# 公設試発！News

## オリジナル酵母「古道酵母」を活用したワインが受賞！

和歌山県工業技術センター

和歌山県工業技術センターでは、酵母や乳酸菌、ユーグレナなどの微生物の育種技術の研究を行っています。また、開発した微生物については微生物資源として「分譲」することで、研究だけでなく産業利用を図っています。

これまでに、センターオリジナル酵母などの微生物を活用した製品が各種販売されています。

今回、センターオリジナル酵母「KODO.ec162株」を活用したワインが、「日本の女性が審査する国際的なワインコンペティション」として開催されている「SAKURA」Japan Women's Wine Awardsで、シルバーを受賞（2026）しました。



「KODO.ec162株」はフルーティなリンゴの様な吟醸香（カブロン酸エチル）を高生産できる特徴を持っています。日本酒用に開発された酵母ですが、ワイン（今回受賞）や、直近の事例ではラム酒などにも活用されています。

"SAKURA" Japan Women's Wine Awards 2026 受賞（シルバー）ワイン：古道-KODO- 白 2024（株式会社TOA 和歌山湯浅ワイナリー）

※詳しくは以下をご覧ください。

<https://www.wakayama-kg.jp/news/2026/03/post-327.html>

## テクノニュースVol.87を発行しました

滋賀県東北部工業技術センター

滋賀県東北部工業技術センターでは、最新の技術情報、研究情報などを掲載した情報誌「テクノニュース」を年間3回発行しています。

2月に発刊したVol.87では、4月からの組織名称変更と夏から秋にかけての移転スケジュール、来年度の注目の事業に加え、技術解説と設備紹介を中心に、実務に役立つ情報を掲載しています。技術解説「風合い試験のいろは」では、KES®（風合い計測システム）を用いた引張り特性・せん断特性の評価について、ストレッチデニムと一般的なデニム生地との比較を通して解説しており、軽い力での伸びや回復性、斜め方向の変形しやすさなど、着用時の快適性に関わる物性を数値で評価する考え方を分かりやすく紹介しています。

また、新規導入機器として光造形方式3Dプリンタ（Form4）を取り上げ、造形の仕組みや特徴、後処理工程、ソフトウェア設定などを詳しく説明しています。高精細かつ高速な造形が可能な光造形方式の特長が理解できる内容となっています。ぜひご覧ください！（Vol.87）

[https://www.hik.shiga-irc.go.jp/application/files/3917/7191/0703/techno\\_news\\_Vol87.pdf](https://www.hik.shiga-irc.go.jp/application/files/3917/7191/0703/techno_news_Vol87.pdf)

（『テクノニュース』バックナンバー）

<https://www.hik.shiga-irc.go.jp/info/technonews>



## 主任研究員がMate+研究発表賞を受賞しました

大阪産業技術研究所

応用材料化学研究部 尾崎 友厚 主任研究員がMate+研究発表賞を受賞しました。

Mate+はスマートプロセス学会エレクトロニクス生産科学部会が主催する「エレクトロニクスにおけるマイクロ接合・実装技術」に関するシンポジウムであり、このシンポジウムにおいて、インサート金属を用いたSiC基材の接合技術およびその接合界面のTEMによる解析について口頭発表しました。

後日開催された選考委員会において、本発表が表現力に優れ、今後の研究活動発展の可能性も高いと認められたため、Mate+研究発表賞が贈られました。



受賞者	応用材料化学研究部 主任研究員 尾崎友厚
授与者	一般社団法人スマートプロセス学会 エレクトロニクス生産科学部会
受賞日	令和7年12月26日
受賞対象テーマ	インサート金属を用いたSiC基材の接合技術とTEMによる界面解析

## 機関名称変更について

奈良県産業振興総合センター

奈良県産業振興総合センターは令和8年4月1日より、「奈良県工業振興センター」へと名称変更いたします。また、それに伴い、所属するグループおよび各科・室等の組織名称についても下記のとおり変更いたします。なお、住所や電話番号の変更はございません。

- 1. センター新名称：奈良県工業振興センター
- 2. 所属部署の名称変更
  - ・オープンイノベーション推進室 産学官連携チーム → 研究総務室 研究総務係
  - ・環境技術支援科 → 環境・機能材料グループ
  - ・デジタル技術支援科 → 機械・電気・情報グループ
  - ・メディカル技術支援科 → バイオ・食品グループ
  - ・ローカルプロダクト科 → 繊維・毛皮革グループ

○お電話によるお問い合わせの際の自動音声案内について  
代表電話番号（0742-33-0817）におかけいただいた際、自動音声にてご案内いたします。研究員の内線番号をご存じの方は「0」の後に3桁の内線番号を押してください。ご存じない方は「1」の後に自動音声にしたがって番号を押していただくようお願いいたします。

